



NAM ニュース



今回のテーマ

栄養不良と社会保障

社会的保護は、脆弱なグループに特に重点を置いて、ライフサイクル全体を通じて、貧困、脆弱性、社会的排除からすべての人々を防止および保護することを目的とした一連の政策とプログラムのことで、生活保護給付金、学校給食、公共事業プログラム、優遇税、年金・社会保障などが含まれます。社会的保護によって、家庭で栄養価の高い食料を購入したり、農業生産への投資できるようになることで世帯のフードセキュリティに寄与するほか、多様な食材を使った乳幼児補完食を与えられるようになったり母親の育児時間が増えることによる育児ケアの改善、そして保健サービスに使える資金が増えるようになることによる保健サービスへのアクセスの改善にも効果がありため、効果的な栄養に配慮した栄養介入(Nutrition sensitive interventions)として注目されています。

エチオピアにおける食事多様性に関する調査



2022年7～10月、妊娠中および授乳中、思春期少女、生後6～23か月の子どもの食事の多様性を改善するための障壁について調査を実施しました。

オロミア州東ハラレグ 県の9つの群(ワレダ)で女性や子どもの食事で栄養価の高い食品の消費の促進要因と阻害要因を特定することを目的としたこの調査は、栄養価の高い食品の季節や市場での変動状況、家庭菜園の好事例を特定し、食事多様性に対する役割、などを分析しました。

パプアニューギニア栄養プログラム評価調査



2022年10～12月、ユニセフの栄養プログラムの評価を行いました。PNGでは長い間栄養問題は無視されてきましたが、5歳未満の子どもの半数

が発育阻害です。ユニセフは保健省と協力して栄養プログラムが計画通り進んでいるか、財源は確保できているか、パートナーや関係省庁との調整はうまくいっているか。プログラムの付加価値、強み・弱み、促進・阻害要因、実施から得られた成功と失敗、教訓などを調べ、改善のための提言をまとめました。

北部ウガンダ栄養プロジェクト

ウガンダ北部西ナイル地方ユンベ群ビディビディ難民キャンプの難民キャンプにて栄養改善事業を、国際協力システム(JICS)の助成を受けて実施しました。難民キャンプの子供の栄養不良を改善することを目的とした現地パートナーであるPACHEDOと連携事業です。今年度は職員を現地へ派遣しました。詳細は裏面をご覧ください。

講義「ポジティブデビアンス」

帝京大学大学院公衆保健学研究科では継続的に「ポジティブ・デビアンス」の講義を実施しています。今回はPDを活用した調査設計を行うことができることを目的としたフォローアップ研修を9月と11月の2回実施しました。

事例を使ってPDを活用の仕方の具体的な方法を演習し、最終的に企業における特定検診・特定保健指導の受診率向上、児童施設出身の子どもの高等教育(大学卒)、産後鬱などに起因する乳幼児虐待防止、などを目的とした調査計画を作成しました。

研修ワークショップ

【「消耗証(Wasting)栄養不良に対するローカルの解決法」】

12月6日、Action Contre La Faim (ACF)の協力のもと、フランスから

Dr. Benjamin、バングラデッシュからMunirul Islamを招待し、対面+オンラインワークショップを実施しました。「地域で入手できるもので栄養不良を解決していくためには？」という内容で講義と、参加者からの質問をもとに活発なディスカッションが行われました。



【「食事調査の実践・運用～途上国の栄養不良問題へのアプローチ～」】7月1日にACDA主催ワークショップを開催しました。日本や途上国における食事調査手法や行動変容のフォーマティブリサーチ調査手法(Positive Deviance)について講義を行いました。

オンラインイベント

11月29日、「国際栄養に関わる栄養士のキャリアって？」を開催しました。国際栄養の分野で働く栄養士にご協力をいただき、「日本での経験がこんな風に役立った」「途上国で働いてみて、気づいたこと」「途上国でやっていたこと」などについて話しをしました。参加者から多くの質問が出て、活発な意見交換の時間となりました。

出前授業(国際理解教育)

墨田区の小学校にて、「世界の栄養問題を考えよう」をテーマに出前授業を実施しました。3年生の児童を対象に、栄養不良について学び、自分たちにできることを考えてもらいました。子どもならではの柔軟なアイデアを出してくれました。遠く離れた開発途上国で起きている問題を自分ごとと捉えてもらえる機会となりました。



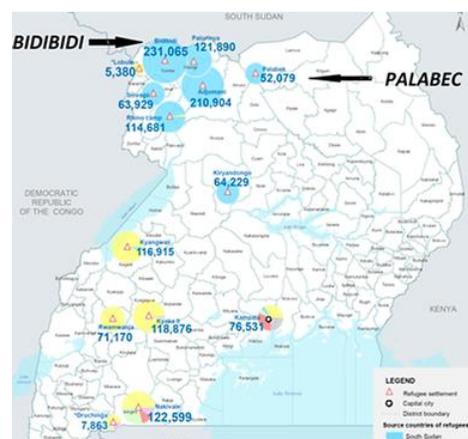
今後の計画

2023年度は、ウガンダプロジェクトの事業を対象エリアを変更し実施していきます。中長期的には、日本からの参加者を現地に招き、現場での人材育成を行うことも検討しています。国際栄養研修ワークショップや国際栄養を学べる教材の開発も行います。

ウガンダ国ビディビディ 栄養改善プロジェクト



アフリカの東側に位置する赤道直下の国、ウガンダは“世界一難民に寛容な国”といわれ、隣国の南スーダン、コンゴ民主共和国などから多くの難民を受け入れています。移動や就労の自由、保健・教育の提供など難民に対する政策をとっています。しかし、決して豊かな生活ができていわけではなく、入手できる食材は限られており、栄養不良の子供たちがいます。そこでNAMでは子供の栄養状態を改善するために西ナイル州ユンベ県のビディビディ難民キャンプで現地のNGO (PACHEDO)とともに栄養改善プロジェクトを実施しています。



プロジェクトの流れ



地域のヘルスボランティア、リーダーとなる母親へ栄養研修



研修を受けたボランティア、母親が、栄養不良の子供を持つ母親を対象に離乳食の調理実習を中心とした栄養・育児教室を実施。



その地域に住む人が中心となり子供の栄養状態を改善できるよう、サポートしています。



教室実施後は家庭訪問や母親集会を開き、育児に関する悩みを聞き、お互いにアドバイスをします。

ウガンダ（ユンベ県）の生活



街の中心地。小さな商店や屋台が並んでいます。写真は人気のスナック「チャパティ」



家は藁葺き屋根の家が多く、中はカーテンで仕切られています。



主食はとうもろこしやキャッサバの粉をお湯で練ったもの、じゃがいもをよく食べます。